

特 275

169

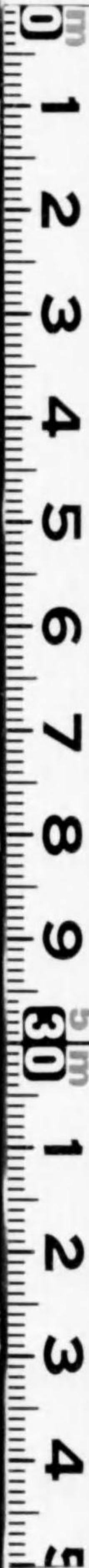
# 自然科學

## 動物寫真



(第一輯)

會協フラグ 育料 教資



# 始



特 275  
169

有鱗類	齧齒類	十脚類	蜥蜴類	蛇類	鱈魚類	人鳥類	龜鼈類	有袋類	奇蹄類	偶蹄類	長鼻類	猴類	食肉類
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一八	一八	一八	一七	一六	一五	一四	一四	一三	一三	一九	一八	一七	一



目

鼻鴟類	全蹠類	鳩類	鴛鴦類	燕雀類	鸚鵡類	鸚類	鴉類	鴛鴦類	雁鴨類	鸕鶿類	鸕鶿類	鶴類
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一六	一五	一五	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一九



次

食肉類	一
食肉類	二
食肉類	三
食肉類	四
食肉類	五
食肉類	六
食肉類	七
食肉類	八
食肉類	九
食肉類	十
食肉類	十一
食肉類	十二
食肉類	十三
食肉類	十四
食肉類	十五
食肉類	十六
食肉類	十七
食肉類	十八
食肉類	十九
食肉類	二十
食肉類	二十一
食肉類	二十二
食肉類	二十三
食肉類	二十四
食肉類	二十五
食肉類	二十六
食肉類	二十七
食肉類	二十八
食肉類	二十九
食肉類	三十
食肉類	三十一
食肉類	三十二
食肉類	三十三
食肉類	三十四
食肉類	三十五
食肉類	三十六
食肉類	三十七
食肉類	三十八
食肉類	三十九
食肉類	四十
食肉類	四十一
食肉類	四十二
食肉類	四十三
食肉類	四十四
食肉類	四十五
食肉類	四十六
食肉類	四十七
食肉類	四十八
食肉類	四十九
食肉類	五十

# 自然科学 動物寫眞

## 第一輯 説明書

### 【目 食肉類】

しし、とら、へう等は、食肉類中、猫科の動物で、齒は鋭く、骨を噛みくだくに適す、舌には突起があるので、骨に附着する肉片をなめとる事が出来ます。更に、非常に鋭い曲つた爪を持つてゐるので、獲物を捕へるにも便利であります。しし、とらの嗅覺、聽覺、視覺等は共によく發達して居り、又運動も敏活で、主に夜間に活動するものであります。

とら(虎)は亞細亞特産の動物で、北は南シベリア、滿洲、朝鮮から、東はトルコ地方、カスピ海の南岸地方、其の他印度、支那、南洋諸島等に廣く分布して居りますが、其の産地によつて、大きさ、色彩、體毛の密度等に違ひがあります。虎は、其の棲息地方でも、非常に恐れられて居る猛獸で、屢々家畜や人間を襲ふことがあります。普通、孤獨的の生活を好むもので、群をなすことは滅

多にありませんが、仔を連れたものが、僅かに群をなしてゐる位であります。獅子も虎同様に夜間活動する動物で、晝間は森林の中や雑草の中に隠れてゐるのであります。又暑さを非常に嫌ふものですから晝間は多く日蔭にばかり居ります。暑さを避けるためか、非常に水浴を好み、水泳も亦大變巧みで、數十哩の海を渡ることが出来ると云はれて居ります。虎は主に羚羊、猪、猿、孔雀其の他の鳥類を餌食としております。

し、(獅子)は「百獸の王」と云はれる程で、其の體も偉大で、又、非常に威嚴のある動物であります。前世紀までは、印度にも居りましたが、現在では殆んどアフリカのみに棲息して居ります。北アフリカには非常に少く、エジプトには全く其の影を見せませんが、中部及以南の地方に可成居ります。

野生の獅子は、産地に依つて鬣の長いのと、短かいのとあつて其の色も種々であります。普通數頭乃至十數頭の小群をなして居りますが、時には、一二頭で生活してゐることもあり、普通森林と草原と砂漠に近い所を棲家として居ります。餌は各種の草食獸、例へば斑馬、きりん、羚羊等で、主に、夕方から朝にかけて探し求めるもので晝間は、木蔭に休んで居ります。獅子は普通、人を襲

ふことはありませんが、唯老年になつて、敏活な動物を捕へることの出来ないものが、家畜や人を襲ふ事があるので。所謂「人喰ひ獅子」と云はれるのが之であります。

へう(豹)は獅子や虎と異つて、非常に木登りが上手で、又活動も敏捷であります。多く樹木の繁つた地方に居て、各種の哺乳類を餌として居ります。身體の斑紋は、丁度木の葉に似て居て、樹林中では、仲々目に付き難いものだと言はれて居ります。豹も亦家畜や、時には人を襲ふもので、特に、犬を好むと云はれて居ります。妊娠期間は、九十日前後で、普通、春に三頭乃至四頭の仔を産みます。

くろへう(黒豹)普通の豹の黒くなつたもので有りましてよく見ると普通の豹と同じやうに眞黒い班點があらわれて居ります。性質は豹より暴くして仲々人になれがたいものです、特にマレー半島附近にあらわれます。

チーター 體は豹に似て居りますが、肢の爪は他の猫科の動物と異なつて自由に出入しない丁度犬の爪と同じ様で有ります。體は割合に細長く肢が長くて走ることの非常に早い動物です。印度やアフリカに住んで居りまして印度では人が馴らして羚羊や鹿の類を捕へさせます、それ故一名獵豹

と云われます。

ほくきよくぐま(北極熊) は體毛が白色なのと、趾に毛のある事等で他のくまと異り趾の毛は、氷の上を歩く時に滑らない爲であると云はれてをります。ほくきよくぐまは寒帯地方の動物で、北氷洋やグリーンランドに棲み、我國では稀に千島に来る事があり、食物は海獸類や魚類であります。然し、春になると、時には草や海藻等をも食することがあります。ほくきよくぐまは、陸上の運動も相當、敏捷ですが特に海中では、泳いだり、潜つたり、自由自在であります。北極熊がおつとせいを襲ふ場合は、必ず風下から、こつそり行き急に飛び附いて捕へるそふであります。之はおつとせいの嗅覺が強くて、直に氣附かれる恐れがある爲であります。

ひぐま(熊) は北海道のみに産する熊であります。ひぐまと非常によく似た熊でシベリア樺太等に産する、あかぐまと云はれる熊が居ります。北海道のひぐまは、普通の熊より形も非常に大きく、性質も遙かに莽猛で、冬は樹洞、岩窟、岩石の裂目等に蟄居して居りますが、春になりますと、活動を初めます。漿果、果實、魚類及び虫類等がひぐまの常食であります。泳ぐことも、木に登ることも巧みで、時には家畜や人を襲ふこともあります。

はなぐま(鼻熊) はメキシコ地方に棲息し、晝間よく活動する動物で主として、樹上で生活するものであります。野生の時には八頭から十頭の群をなしてゐるものです。性質はどちらかかと云へば、喧嘩好きの動物であります。小哺乳動物、鳥、卵、昆虫等を捕食します。

しまハイエナ(縞鬣狗) は印度、及び北部亞佛利加に産するもので、背と首に鬣の様な長い毛が生へて居ります。はいえなは普通、他の猛獸類の残した屍肉、腐肉を、稀には生きた哺乳類を餌にします。齒の強いこと、消化力の旺盛なことは驚くべき程で、大きい骨を噛まずに呑み込んで、容易に消化して仕舞ひます。彼等は夜行性の動物でありますから、晝間は眠つてゐる事が多いのであります。

きつね(狐) は最も人に知られた動物の一つで本州、四國、九州に産します。森林中にも棲みますが、多くの場合平野を好む動物であります。巢は樹の根や岩石の間の間隙等を利用した穴で、夜になると、野鼠、兎、其他、昆虫等を求めて歩きます。

たぬき(狸) は又むじなとも云つて居ります。アムール地方から、東部亞細亞及び日本に産するもので、其の毛は古來より筆を製するに用ゐられたり、襦の中皮に使用されたりしたものであります。

すが、近時はその毛皮が防寒用として、高價に外國へ輸出せらるゝ様になつたので今では、野生のものが大ひに減つて仕舞つたのと、又一方には野鼠を捕食する所の有益獣でありますとに由り、保護獣となつてゐるのであります。

**おつとせい(臘肭獸)** は北太平洋、ベーリング海、オホーツク海等に棲息し、海豹島、プリピロフ諸島等は有名な繁殖地であります。毎年七月頃になると、おつとせいの大群は之等の島に集ります。おつとせいの一夫多妻は有名で、多いのは一頭の牡が七、八十頭の牝を連れてゐることがあります。牡と牝の身體の大きさは非常に異り、牡の大きいものになると、體長二、五米位、體重約三百斤に達するものがあります。しかし牝は體長一、五米を越ゆるものは稀であります。おつとせいの毛皮は防寒用として優美な高價なものであり、其の他肉や脂肪も利用される所が多いものです。

**あしか(海鹿)** は北米のカリフォルニア以南の太平洋岸に群を成して棲んで居るもので海魚類を食します。成長した牡の額には瘤の様な凸出部が出来ます。

**ふいりあざらし**は樺太、千島等の海に棲んで居るもので體には灰黒色の斑點があり、耳殻がありませんし、又四肢はおつとせいやあしかに比べて非常に短いので容易に見分けられます。

**かはうそ(水獺)** 水獺には十種類あります。其の中の一は歐洲と東洋、三種は東洋のみ、二種はアフリカ、四種がアメリカに分布されてをります。かはうそは水邊を好み、足には、蹼膜があつて、水泳に驚く可き程の巧妙さを見せ潜水も得意であります。

#### 【目 類】

**にほんざる(日本猿)** は尾が非常に短く、顔が赤く、體毛が非常に深い所に特長があります。日本猿は世界中で一番北部に棲んでゐる種類で津輕海峽は世界の猿類分布地方の一番北端に當つて居ります。此の猿は日本特産の動物で、本州、四國、九州の山岳地方に群を作つて棲んで居ります。妊娠期間は約八ヶ月で普通四、五月頃一頭の仔供を産みます、日本猿の食物は赤毛猿のと同じであります。

**あかげざる(赤毛猿)** は印度地方に最も普通に見られる猿で、相當、高い土地にも居るものです。此の猿は雪の降る所にも屢々棲息して居ります。印度にあつては、普通、川の岸に樹木の繁茂してゐる所を好み、水泳も巧みであります。この猿は普通大群を造つて、一頭の強い牡に導びかれて生活します。果物や種子や其の他の昆虫類を喰べて居ります。毎年一、二頭位の子供が産れますか

ら、春から夏にかけて、屢々母親の腹にしつかりしがみついてゐる仔が見られます。

マントヒツ、はアフリカ産で、岩石の多い山地に群棲して居ります。性質は至つて兇暴で人に馴れることはありません。食物は主に、菜食で、草若芽、果物などを食します。特に鳥の卵を好みます。

メガネザル(眼鏡猿)　フィリッピン、ボルネオ、マレイ等に棲む、猿類中最も下等なもので此の猿は夜出でて巧みに樹上によち昇り、果實、小鳥昆虫等を捕食する野獸であります。

一名「すねながさる」とも云ふ、體はリスよりも小さく目。耳は大きく後肢の脛部が甚だ長く眼の周圍に黒い環がある、一見するに「めがね」をかけた様で有るので此の名があります。

#### 【目　長　鼻　類】

ぞう(象)　いんどぞうは、牙のある方が牡で、牙の無いのが牝であります。象は現在、陸上に棲む哺乳類のうちで最も身體の大きいものであります。印度象は印度、セイロン島、ボルネオ島、スマトラ、馬來半島、シヤム、ビルマ地方に棲息して居ります。普通、三十頭乃至五十頭の群をなし、普通は大きな牝によつて導かれております。熱帯地方の動物ですが、日光の直射を嫌つて、日

中は森林にかくれております。象は、非常に水浴が好きで、又大變水泳も巧みでもあり、可成り深い處にも平氣で入ります。印度象が、家畜として非常によく使用されて居ることは、既によく知られて居る處で、重い物を運搬させたり、乗用に使つたり致します。其の牙の工藝用として尊重されることは申すまでもありません。食物は重に草食類であります。

#### 【目　偶　蹄　類】

ふたごぶらくだ(雙峰駱駝)　は南シベリア、蒙古、滿洲及び支那に産する反芻類で、背に二つの瘤があり、一つの瘤のひとこぶらくだ(單峰駱駝)と區別されて居ります。此の瘤の中には、脂肪が蓄へられ、胃には又水を貯へる事が出来るから、駱駝には相當、長い間喰べずに、又飲まずに居る事が出来ます。鼻の孔も自由に塞ぐ事が出来るので、砂漠の烈風中でも砂の入るのを防ぐ事が出来ます。駱駝は耕作其の他の勞役に使はれ、其毛は織物用に用ひられます。

かば(河馬)　は亞弗利加の湖水や、河の中に棲んでゐるもので、陸上に棲む獸類中で、象に次ぐ大形の動物であります。かばは河の中、又は河の岸に、二十頭から三十頭の群をなし、日中は河の中で僅に鼻の先を水面から出して眠つて居ります。日没から頓て夜になりますと、餌を求めるため

に、水中から陸上に出て草を食ふのでありますが、食物が缺乏して来ると、耕地までも荒すことがあります。

河馬の肉は非常に美味で、良い脂肪も澤山採れます。又其の皮や牙が工藝品に利用されるので、アフリカでも漸次に捕り盡されて、現今では其の数が少くなつたさうであります。かばは草食獣であります。

きりん(ジラフ) はアフリカだけに棲んで居り陸上の動物中では一番丈の高いものであります。草原や疎林に棲んで居りまして、木の葉、芽、皮等を食べて居りますが、普通は地上の草を食ひません。首は非常に長いのですが、前肢は更に長いので、地上の水を飲んだり、餌を食つたりする時は前肢を充分に廣げないと口が地上に届きません。彼等は普通五、六頭乃至十頭位の小群を成して居りますが、又良く他の草食獣即ち羚羊類や班馬等と一緒に居ります。走る事は非常に速く、性質は憶病で又注意深いのでありまして、少しでも危険な事があると大急ぎで走つて逃げます。體の網目状の様子は野生の時は保護色に成つて居るもので、木の間に立つてゐる時は却々見付かり悪いものであります。

いのしし(野猪) は本州、四國、九州に産するものであります。

鹿類は、偶蹄類に屬する反芻類で、胃は四つに分れ、所謂、反芻胃をしております。鹿類は一般に肢が細く、運動は敏活で、普通、牡のみが角を有しております。一般に、角は毎年春に落ち、約半年の間に再び立派な新らしいのに變ります。

鹿類は草食獣で草木の葉、樹皮、根等を食します。

しか(鹿) は日本特有のもので、南は鹿児島縣屋久島から、北は北海道まで分布しております。

近來、我國では鹿の数は非常に減少し、禁獵區以外では、其の数が年々減少しております。鹿類の妊娠期間は、約八ヶ月で、五月の末から六月の下旬に一頭の仔を産みます。

くわろく(花鹿) は主として臺灣に産し、其の體形は、日本鹿によく似てゐるが、白い班點が日本鹿よりも明瞭で、而も、夏冬共に消へ去ることがありません。

やぎ(山羊) 重に本邦支那朝鮮等に産するもので、乳の澤山に採れる山羊とは異なる種類のものであり。

めんやう(綿羊) オーストラリア・メリノー種で、我國にも多數輸入されて居るものであります。



綿羊の毛、即ち羊毛は毛絲或は毛織物の原料として利用されます。

すみぎう(水牛) 印度水牛から臺灣に於て家畜とされたもので、農業用、運搬用に廣く使用され時には食用にもなり、角は印材其の他の工藝品の材料になります。

アメリカやぎう(亞米利加野牛) バイソンは北米及びカナダに棲んで居る野生の牛でありまして、頭部、頸及び前肢の後部には長い、黒い毛があります。其他の部分の毛も冬は相當長く成ります。體の大きい割合に蹄は小さいもので、性質は荒くて、走る事は非常に速いのであります。

アメリカやぎうは今から約六十年位前迄は非常に大群を成して棲んでおりましたが、其後殆ど絶滅に近い程捉へられたので、現在はアメリカ合衆國及びカナダ政府に依り法律で保護されて居ります。それ程野牛が捕へられたのも、其肉が非常に美味で、又毛皮や皮等が色々の物に利用されるからであります。

#### 【目 奇蹄類】

しまうま(斑馬) は種々の種類がありますが、皆、アフリカの中部東部及南部に産する野性馬で、斑馬は、普通十頭から三十頭位の群をなしてゐますが、時には數百頭の大群の時もあります。

他の草食獸である、羚羊類、ジラフ、角馬(ニュー)、水牛、或ひは駝鳥等と一緒にゐることが多いのであります。

斑馬は、非常に臆病な又注意深い動物で、草を食ふ時でも水を飲む時でも常に見張を置きます。此の見張は何か變つたことがあると、直ぐに、仲間知らせるのでありまして、斑馬の最も恐れる敵はライオンであります。

うしうま(牛馬) は鹿兒島縣の種子ヶ島に飼はれてあります。之は豊臣秀吉の朝鮮征伐の時に、彼の地から島津公が持ちかへつたものゝ子孫であると云はれて居ます。うしうまは種子ヶ島のみならず最も珍らしい馬で、鬣がないのと尾が牛に似てゐるのでうしうまの名があるのであります。

#### 【目 有袋類】

おほカンガルーは、オーストラリア産で、カンガルー中一番大きい種類であります。今から凡そ、百六十年前に、有名な航海者ゼームスツク氏がオーストラリアに渡つた時、初めて發見したものであります。

おほカンガルーは、後肢と尾とが非常に發達し走る時には後肢だけで跳び歩き、尾で體を支へる

のであります。又、おほカンガルーの武器は、後肢の大きい爪でありまして、之で敵を蹴るのであります。野生の場合には、草木の葉や枝、茅其の他種子などを喰べます。

#### 【目 龜 鼈 類】

ぞうがめ(象龜) は印度洋中のアルダブラ島に棲息してゐる陸棲の龜で、脚の形が象のに似てゐるので此の名があります。非常に大形のもので大きいものになると百斤以上にも達するものがあります。卵は球形で白く、鶏卵より稍々大形で固い殻を被つて居ります。此の龜の肉は非常に美味であると云はれて居ります。植物性の餌を攝るものであります。

アヲウミガメ(青海龜、一名正覺坊) 本種は熱帯及び亞熱帯の海洋に分布して、本邦沿岸及び小笠原島に棲息して居ります、而して小笠原にては凡そ五六月頃に上陸して然も砂原に穴を造り其中へは九十より百七十位い澤山産卵して蕃殖致します。

此の大きな物は身長四尺にもあまる物も有ります、食物として海藻類烏賊等を常食として居ります。

#### 【目 人 鳥 類】

マゼランペンギン 此の鳥は地球の南半球のみに棲んで居る鳥で全く飛ぶ事が出来ません、が泳ぐことや水に潜る事は非常に上手であります。普通大群を成して棲んで居ります。魚や其他の小水棲動物を食べて居ります。

#### 【目 鰐 魚 類】

いりえわに(入江鰐) はフィリッピン、南洋諸島、南支那、印度、北部オーストラリア等廣く分布して居る種類で、大きいものになりますと長さが十米に達します。性質は荒くて、時々人間に害する事がありますが、普通は魚類や哺乳類を食べております。河口に多く、時には海に出る事もありますので、一名「うみわに」とも云はれてをります。

アメリカわに(亞米利加鰐) は北米の南部、中米及南米の北部に分布してをりまして、特に頭が長いのが特長であります。大きさは六米に達するものがあり、主に魚類を食してをりまして、性質は割合に温順しい方です。

インドわに(印度鰐) は印度及セイロン島に棲んでおり、入江鰐に似てをりますが大きさは四米にしか達しません。印度では特にこの鰐を澤山飼育しておる所があります。

以上の鰐魚類はクロコダイルに属するもので、頭先(吻部)が割合に尖つてゐて、上から見ると頭の形は三角形を成してをります。

しなアリゲーター は支那の揚子江に棲んでゐる小型の鰐で最大のものでも二米位にしかなりません。割合に温順しく、主に魚類、兩棲類等を食してゐます。

アメリカアリゲーター は北米の南部の河や池等に棲んでゐるもので長さは四・五米に達します。魚類、兩棲類、哺乳類等を食べてをりまして、性質は割合に温順しい方でありませす。

以上の二種はアリゲーターに属するもので口の尖端は上から見ると圓みを帯びてをります。

カイマン は中米及南米に棲んでゐる鰐で數種類ありますが、これはブラジルのサンパウロ州の日本人殖民地に於て捕へられたものです。口の先端はアリゲーターと同じ様に圓味を帯びてをりますが、腹の方の皮も脊中と同じ様に固くなる點が異ひます。長さは約二・四米に達します。

マレイヴィヤル はスマトラ・ボルネオ等に棲んでゐる鰐の一種で、口の所が丁度鳥の嘴の様に細長いのが特長で珍しい種類であります。性質は温順しく主に魚類を食します。

### 【目 蛇 類】

にしきへび(蝮蛇) は馬來半島に産するもので、蛇類中最も大きい無毒の蛇であります。大きいになると、長さ十米に達するものもあります。普通、うはばみと云つて、見世物などに出るのは大抵この蛇であります。蝮蛇には、肛門の近くに、一般に、「爪」と云はれる小さい突起がありますが、これは、脚の痕跡だと云はれて居ります。

### 【目 蜥 蜴 類】

あをじたとかげ(青舌蜥蜴) はオーストラリアの産で、其の名の通り、扁平のスポンジ様の青い舌の持主です。此の舌を用ひて各種の昆虫類、果實等を食します。

マツカサトカゲ(松毬蜥蜴) 體が割合に短かく、表面に大きな鱗を被つてゐます、一見して松毬を見るやうな感じがるので學術上マツカサトカゲと呼ばれてゐます、尾が特に短く雌は頭と同じやうな形をして居るので、全くどちらが頭だか分らぬといふ珍しいものです。オーストラリヤ地方に多く産します。

カメレオン はアフリカ地方の動物で、皮膚の色彩が變化するのと、眼球が左右、各々獨立して動くことゝ、更に虫を捕食する時、身長と同じ位の、舌を延すことで有名であります。原産地では

非常に濕氣の多い密林中に居り、保護色が發達してゐるので、容易に發見することが出来ないと云はれております。

【目 十脚類】

ヤシガニ(椰子蟹) 此の蟹は寄生蟹族中一番大きな種類にして東洋の熱帯地に棲息する、本邦にては小笠原島、南洋委任統治諸島、紅頭嶼等に知られて居ります。

普通は土中の穴に棲み、夕方海岸に出て椰子樹に登攀して椰子の實を好食す、食物は植物性を多く好み又食肉性でも有ります。

【目 齧齒類】

やまあらし(豪猪) は東印度地方、亞弗利加、歐羅巴にかけて廣く分布してゐる齧齒類に屬するもので、あります。やまあらしが怒つたり、危険を感じたりした時は、針狀の毛を立て、針先を敵の方に向け、同時に尾に附いてゐる管狀の棘毛を振つて、異様の摩擦音を出して、敵を威嚇します。若し強ひて敵が攻撃すれば必ず其の針先で刺してしまふのであります。

【目 有鱗類】

センザンコウ(穿山甲) 此れは哺乳類中の有鱗目に屬するもので歐洲、支那及び臺灣、海南、ピルマ等に棲息し體全体は恰も屋根瓦狀の如き鱗を以て被毛は其の間に散在するグロテスクな動物であります。

【目 鶴類】

鶴類は一般に脚及嘴の非常に長い大型の鳥であります。鶴類は非常に大きい聲で鳴くものですが之は發聲器官の一部である氣管が異常に長い爲であります。鶴の氣管は他の動物のやうに頸の部分のみで終らず、胸の下部にまで折れ曲つて伸び、之を延ばせば、脚の先端に迄及ぶ程であります。食物は穀類、草木の葉や根等や昆虫、貝、蛙、小魚等であります。日本に渡つて來る鶴は、主に東部シベリア、或は北滿洲地方を繁殖地とするものであります。

たんちよう(丹頂) は姿の優美な點では、鶴のうちでも冠たるものであります。我國にも昔は可成澤山渡つて來たものであります。現在では野生のものは殆ど見る事が出来なくなりました。我國に來るものは唯、冬を越すだけで、繁殖地は滿洲、ウスリー地方及朝鮮等であります。

まなづる(眞那鶴) は東部シベリア、蒙古、滿洲、東北支那、朝鮮及日本等に分布して居ります。

我國に於ける渡來地は鹿兒島縣に一箇所あるので有名なるものであります。此處へは毎年十月下旬頃に渡つて来て、晝間は近くの水田等に餌を求めるのであります。

なべづる(鍋鶴) は東部シベリア、蒙古、滿洲等で繁殖し、日本及支那等で冬を越します。我國では前記の鹿兒島縣及山口縣に一箇所渡來する所があります。

此の鶴は、アジアのみに産するもので、我内地では近來その数が甚しく減少したので渡來地ではこれらの鶴の保護に努めてをります。

あねはづる(姉羽鶴) は東部及南部歐羅巴、南部シベリア、中部及西部アジアに於て繁殖します。

冬期は東北アフリカ、印度、支那等まで渡ります。我國へは渡來する事は稀れであります。

ベニツル(紅鶴) 此の鳥は南歐洲の沿岸地方、全アフリカ及び亞細亞に分布し我國にては稀に舶來して動物園等に飼養せられてある著名の鳥類にして一見鶴に似た此の鳥は鷺に近い種類です飛翔の時は雁或は鶴の如くV字型をして頸脚を伸して飛び、一日の大部分は水中にて渉歩す、時には游泳する事も有る。

原産地では數千羽の大群をなして棲む事も稀で無い、餌は牧草、蛙、甲殻類、軟體類等を捕食す

### 【目 鵜 鷺 類】

う(鵜) とペリカンとは似た種類で、共に鵜鷺類と云はれます。

うみう(海鵜) は日本全國と支那の大部分にゐる鳥であります。うみうは十二月下旬に岩石の上に小枝や葭等で巢を營み、約三個の卵を産みます。食物は主に魚類を食して居ります。「鵜飼」として使用される事は有名であります。普通、鵜飼に使はれるのは主に、かはう(河鵜)であります。うみうも利用されないこともありません。

ホワイトペリカン、オーストラリアペリカン

ペリカンは何よりも、嘴が大きくて、下嘴に袋がついてゐるのであります。大きな嘴を水の中に入れて魚を掬ふと、下嘴についてゐる皮の膜が袋のやうに膨れますから、口の中へ澤山に魚を掬ひ込むことが出来るのであります。それから上下の嘴を締めると、自然に皮の膜が縮んで、口の中の水が絞り出されますから、その時初めて口の中の魚を嚥下するのであります。ホワイトペリカンは歐羅巴の東南部、亞弗利加の東北部、及西南部に、オーストラリアペリカンはオーストラリアの産であります。

鵞類にはこうのとりの(鵞)。

鷺類は嘴、脚、頸の長い點で、鵞類に似て居りますが一般に身體は小さく巢は樹上に木の枝等で作ります。鷺類は非常に軽やかに、且つ、緩やかに飛びますが、歩くことも大變に巧みであります。繁殖期には特に群をなし、樹上に巢を營みます。虫類、小魚類、蛙等を常食として居ります。

我國では鷺類のうち、ごみさぎ(鍋冠)が最も多く、北海道から南臺灣にかけて分布して居ります。特に夏の夜に鋭い聲で鳴きながら飛ぶのが、これです。

ごみさぎの幼鳥は、成鳥と羽の色が全く異つて居りまして、俗にほしごみと云はれて居ります。成鳥と成るまでには約三年はかゝります。

あまさぎ(蒼鷺) 鷺類の内が一番大形で我國では樺太から臺灣に至る迄、何所にもゐる種類であります。

こさぎ(小鷺) は全身純白で一名しらさぎと云はれる鷺であります。こさぎは南歐羅巴、中央及南部亞細亞、亞弗利加等に棲んでゐるもので、毎年四五月になると松の枝へ巢を造る有様や、その

雛を育てるのを見ることが出来るのであります。又こさぎの背の翼羽は、帽子の飾りなどに貴ばれるもので、頗る價の高いものであります。

こうのとりの(鵞) は東部西比利亞、朝鮮日本に産するのであります。嘴はたんちやうやまなづるよりも長く、目の周圍には赤色の皮膚があります。この鳥は明治の初年頃までは、日本に澤山居りましたが、今では殆どなくなりました。

よしごみ(葭五位) は夏の間だけ、我國に渡つて、當地で繁殖する非常に小形の鷺で、冬は南洋方面に居るのであります。非常に、弱い鳥で、特に冬期には防寒に努めて居るものです。

カフノトリ(白鷺) 東部西比利亞、蒙古、滿洲及び北支那(直隸省)に分布し、我が國には北海道(十勝)本洲、四國、對島、朝鮮及び臺灣等は知られて居ります。兵庫縣出石郡鶴山の松上が唯一の蕃殖場として天然紀念物に指定せらる、渡りに際しては大群をなすあり、飛翔優大無聲にて早く頸脚を體と共に一直線とす、嘴にて大音を發す。

食物は昆蟲、小魚、蛙、爬蟲類、野鼠等なり。

おほはくてう(大鵝) ははくてう(鵝)より幾分體が大きく、嘴の基部の黄色部が、鼻先まで達してをります。おほはくてう、はくてうは共に我國の樺太、北海道、本洲の北部の湖水等に渡來します。

はくてう(鵝) は我國に産する鳥類中では最も大形のもので、昔は相當多かつたものであります。はくてうが我國に來るのは十一月初旬で、翌年の三月頃には、繁殖地のシベリア北部、北氷洋沿岸等に歸つて行きます。我國のはくてう渡來地として最も有名なのは、青森縣の小湊附近で、その他では北海道、樺太の各地方であります。はくてうは年々減少する傾向にありますから、樺太以外の地に於ては、特に保護を加へられ、捕獲を禁じられて居ります。主に水草昆虫等を喰べてをりますが、貝類等も食せぬことはありません。

こくてう(黒鵝) は濠洲の南部とタスマニアに産するものです。羽毛は煤色を帯びた黒色ですが風切羽には白色の所があります。上嘴は深紅色で、其先に近い所に白部があつて其の足は黒色であります。

はくてう、かも、がん等は雁鴨類と云つて其の特徴は、體が割合に肥つてゐて、大きく、頸が長

く、脚が短く、趾の間に蹼を具へて居ることあります。又、嘴は平たく、其の合さる所は櫛の齒のやうにぎざ／＼で魚類を捕へるのに便利に出來て居ります。

重に虫類や小魚等を食します。

我國に産する鴨類は、大抵シベリア東部地方やカムチャツカ等を繁殖地とするものであります。九月上旬から十月中旬までに日本に渡つて、河川、湖沼等で群集生活をするものであります。一般に、晝間は池や河の静な所に游いだり、又は、水から陸に上つて休んで居りますが、夕方になると餌を求めに出掛けまして、朝早く又もとの休息所に歸つてくるのです。鴨類が繁殖地に歸るのは四月下旬から五月初旬にかけてあります。

#### 【目 鷲 鷹 類】

猛禽類は一般に丈夫な強い爪と、鋭く曲つた嘴と鋭い目を持つた鳥で、中には大きな鳥も居ります。此の鳥は高く聳えた木の頂から或は、又空を飛びながら地上にある餌を見つける事が出來、それをさらつて舞ひ上ります。視力は非常に優秀で、又、飛翔力も偉大であります。一般に、猛禽類は小獸、小鳥、魚類、虫等を喰べますが、中には腐肉を好んで食するものもあります。巢は高い樹

の上や、岩の上又は断崖、絶壁等の岩の割目、洞穴等に、木の枝等を運んで作ります。

**おほわし(鳶)** は東部亞細亞のみに分布してゐるもので、我國では樺太、千島、北海道、本州四國、琉球等の各部に棲息して居りますが、其の数は割合に少いのであります。

**いぬわし(狗鷲)** は歐羅巴、北亞弗利加、北亞米利加及び亞細亞の大部分に棲み、我國では北海道と本州に棲息して居ります。春になると普通二羽の雛を育てますが、親鳥は毎日鼠や小鳥や或は蛙等を捕へて與へます。雛の巣立ちの時には、親鳥は雛に難かしい飛び方の練習をさせます。その時は、非常に高い断崖等から突き落したりします。かやうにして段々自由に飛べる様になるのであります。

**オジロワシ(尾白鷲)** アイスランド、歐洲、小亞細亞の東北部等に分布し冬季南歐、地中海、北亞弗利加、印度及び支那に渡る、本邦にては廣く分布してあります。

此の鳥は主として海灣、入江等に棲息し魚類、野鳥、獸及腐肉を捕食するものであります。

**くまたか(角鷹)** は名稱が鷹と呼ばれますが、實に鷲に屬するものであります。北海道から本州九州、朝鮮等の山地に棲んで居ります、尾羽は他の鷲類と同様に矢羽に用ゐられます。

**はげわし(秃鷲)** は我國の鷲類中最も大型のもので、他の鷲類と異つて秃鷲科に屬して居ります南部ヨーロッパ、北アフリカ、小アジア、支那及朝鮮に棲み、内地にも時々迷ひ込んで來る事があります。

**とび(鳶)** は東京地方に於ても、普通よく見られる猛禽類の一で、日本全國各地方に廣く棲息して居ります。

鳶は普通鳥や蛙其の他虫類等を食して居ります。

**ハヤブサ(隼)** 日本にては千島、北海道、本州に棲み、古來より鷹狩に使用せらるゝ物で冬季、支那及び馬來群島に渡る鳥であります。

巢は樹上や岩上に營み、食物としては食肉性にして自ら他の小動物を捕食するものであります。

**ツミ(雀鷲)雌 雀賊(雄)** 此の鷹は本邦に産する鷹類中最小の物にして雌を「ツミ」と呼び雄を「エツサイ」と云ふ。古來は「ハイタカ」と共に鷹狩に使用せられた物であります。

食物は食肉性にして自ら他の小動物を捕食します。



おほじゆけい(大綬鶏) は支那の中央部及西南部に産する鳥で仲々人に狎れ難いものであります  
 きじ(雉) は日本に居る鳥で獵鳥として最も有名なもので、本州、四國及九州の山に棲んで居ります。

こうらいきじ(高麗雉) は朝鮮及對島に居るもので、頸部に白い輪のあるのが、本種の特長であります。

きんけい(錦鶏) も支那の中央西部の山地の鳥で、「錦鶏鳥は唐の鶏」と云はれ我國でも、古くから飼養されて居たものであります。

ぎんけい(銀鶏) は支那の西部及西藏の東部に産する鳥で、歐米諸國に於ても我國のきんけいのやうに、人工を以て多數に繁殖させて愛玩、飼養せられて居ります。銀色セブライト・パンタムと白毛冠黒色ホーリツシユ種等があります。

食物は主に穀物と野菜と昆虫類等を主としております。

コシアカキジ(腰赤雉) 此の鳥はボルネオに限り産する物で、バカン島にも移植せられております。我國へは飼鳥として動物園などに飼育せられております珍しき鳥であります。食物は植物

質を主として居るが、蠕蟲、軟體類等を食す。

くじやく(孔雀) は馬來半島、交趾支那、シヤム、ジャバ等に棲息するもので、木の芽、虫類等を食して居ります。雄の綺麗な長い羽は、形が尾に似てをりますが、實は尾ではなく、上尾筒で、俗に云ふ養羽であります。毎年夏の始めから落ち初め、一月頃には立派な羽と脱け更つてしもうものであります。

いんどくじやく(印度孔雀) は又ほうわうくじやくとも云はれ、印度及びセイロン島の山地に棲息しておりまして、南部印度では一五一五米位の高地にも棲んで居ります。まくじやく(眞孔雀)と同様に、飾羽は毎年抜け代りますが、まくじやくに比べると、其の時期が少し遅いのであります。くじやくの飾羽の美しい模様は決して色素に依つて現れるのではなく光線の屈折の關係に依つてあんなに美しく見えるので、丁度虹と同じ原理によるのであります。

しろくじやく(白孔雀) は印度孔雀の變種であります。

しちめんちよう(七面鳥) は元、北アメリカの平原地方に棲んで居たものが、家禽として飼育される様になつたものです。外國ではクリスマススの御馳走として是非必要なもので、肉も美味、卵も

鶏同様賞美されます。

やまどり(鶴雉)は雉と共に最も人によく知られた、我國特有の鳥の一つであります。きじよりも人に狎れ難く、又飼ひ難い鳥であります。

ちやうびけい(長尾鶏)は日本の高知縣土佐國の特産であります。しらふち(白藤)、しのはらたう(篠原統)、とうてんこう(東天紅)などの名稱に分たれて居ります。ちやうびけいの雄の尾は、非常に長く伸びるもので、六・四米七・三米位に伸びた例があると云はれて居ります。雄の尾を伸ばすには、特別に狭い箱の中へ棲り木を作つてやつて、年中其所に止らせれば自然に尾羽が伸びるけれど、地上へ飼ひ放して置くと、折角、伸びた尾羽が断れ、又長く伸びないのであります。

カラフトライテウ(樺太雷鳥) 樺太と千島に産し冬季に成ると羽毛が美しい純白色に變ずる事が特長で、他のライテウの様に保護鳥で無い、棲息地としては森林を好み、雪線近き高山に極限して産し、又高原地帯の如き地方にも分布する。

食物として草根、漿果、種子、穀類、昆虫等有る。

#### 【目 鷓 類】

おほせくろかもめ(大背黒鷓)は東部西比利亞の沿岸、カムチャツカ、コンマンガール島に分布してゐるもので、我國では樺太、千島は繁殖地で、北海道、本洲北部に棲んで居るものです。

#### 【目 鷓 類】

鷓類は、南支那、南洋諸島、マレイ半島、印度セイロン島、オーストラリア、ニューギニア、アフリカ、マダガスカル島、中央アメリカ、南アメリカ等に産するものであります。鷓類は嘴が非常に大きくて、随分、固いものでも噛み砕くことも出来るし、又枝から枝へと移るにも、この嘴を用ひます。

肢の趾は、四本で中央の二本は、前方に、他の二本は後方に向いております、物を食べる時にも其の肢を用ひ、丁度、人間の手の様な役目を致します。鷓類には、非常に羽の色の美しいものが多く、熱帯或は亞熱帯地方の樹林の中にあつては、かへつて其の色が目につかないのであります。鷓類は、果實、種子、穀類、木の芽等を主食としておりますが、花粉や蜂蜜などを好むものも居ります。鷓類を挙げれば次の様な種類があります。

きばたん(濠洲産)、おほばたん(モラツカ群島産)、こばたん(セレベス、モラツカ島産)、てんち

くばたん(濠洲産)、たいはくあうむ(モラツカ島産)、くるまさかあうむ(濠洲産)、うすゞみいんこ(マダガスカル島産)、あまぼうしいんこ(アルゼンチン産)、みどりづあかいんこ(ペルー産)、もゝいろいんこ(濠洲産)、おかめいんこ(濠洲産)、だるまいんこ(交趾支那産)、ほんせいいんこ(交趾支那)、おほゝんせいいんこ(セイロン島産)、つぐろ。ごしきせいがいんこ(セレベス島産)、うろこめきしこいんこ(ブラジル産)、せきせいいんこ(濠洲産)、あまめきばたん(バプア島産)、せうぜういんこ(モラツカ群島産)、ぼたんいんこ(アフリカ産)、くろぼたんいんこ(アフリカ産)、かるかやいんこ(マダガスカル島産)、おほみどりこんごういんこ(メキシコ産)、るりこんごういんこ(バハマ産)、べにこんごういんこ(メキシコ産)、ききぼうしいんこ(南米産)。

おほばたん(大巴旦) はセラム島やモラツカ群島の海岸或は山間に棲息するもので、可成高い山の上にも居るものです。普通雌雄でゐるが、特に繁殖期には非常に仲がよく、決して離れることがありません。卵は主に木の洞に産みます。

くるまさかあうむ(車冠鸚鵡) はオーストラリアの南部に多く、高いゴムの樹の上に群をなして棲んでゐます。

おかめいんこ(片福面鸚鵡) はオーストラリアの中央部及び東部に多い種類で、これも亦群棲して居ります。非常に活潑に運動を爲し、野生の場合にも人を恐れないものです。十月頃に川岸に五個乃至六個の卵を産みます。

せきせいいんこ(脊黄青鸚鵡) はオーストラリアの中部及び南部に棲んでゐる小形の鸚鵡で、我國でも一般に多く飼はれてゐます。原産地では二十羽乃至百羽の群をなし、草の種子等を食して居り、飛ぶのも非常に早く、又地上を歩くのも巧みであります。十二月頃になると、普通ゴムの樹の洞等に四個乃至八個の白色の卵を産み、卵は十八日から二十日で孵ります。繁殖期には南の方に渡りますが、雛が大きくなると再び中部に歸ります。

こんごういんこ(金剛鸚鵡) は鸚鵡類中一番大きい種類であります。

#### 【目 燕雀類】

かさゝぎ(鶺鴒) も亦鴉科の鳥で、支那、海南及日本(臺灣、九州及び朝鮮)等に居ります。主に虫類、蛙其の他動物質のものを主食とし、樹上に粗雑な巢を営みます。

#### 【目 駝鳥類】

走禽類は他の鳥類と異り、羽が極度に退化して、全く飛ぶことが出来ない鳥で、一般に非常に大形で、走ることの早い鳥であります。

ひくひどり(食火鶏) はオーストラリアの東北部、ニューギニアとその附近の島等の森林中に棲んで居ります。草木の芽や穀類、果實及虫類等を食しますが、他の走禽類と同様に多くの小石を食します。之は鶏が砂を必要とするのと同様消化を助ける爲であります。ひくひどりは全く晝間活動する動物で夜は森林の中に座つて眠ります。

えみう(鴝) はオーストラリアの草原或は稍々、樹木のある地方に棲んで居るもので、だてうに次ぐ大形の鳥であります。食物は草木の根や果實等で、走ることの早いのは他の走禽類と同様であります。水泳も巧みであると云はれて居ります。

だてう(駝鳥) は現在、棲息する走禽類中最も大きいもので、雄の大きいのは高さ二、六米に達することがあります。だてうはアフリカ、アラビヤ、シリア等に分布されて、産地に依つて種類に變化があります。普通、草原或は砂漠地方に棲息し、草の葉、種子、虫類或は蜥蜴等を食し、斑馬や角馬と一緒に生活しております。走ることの早いのは有名で、一時間四十二哩位の速力を出し、

一步の間隔が七八米位に達するものもあります。羽の色の黒いのが雄で、灰色のが雌であります。だてうは地上に砂を掘つて、そこに非常に大きな卵を産みますが、太陽の熱のみでは温度の足りない地方では夜間は雄に晝間は雌によつて温められると云はれて居ります。

#### 【目 鳩 類】

でんしよばと(傳書鳩) かんしやうようばと(觀賞用鳩)、しよくやうばと(食用鳩)等が居ます。傳書鳩は歐洲大戦で殊勳をたてた事は有名な話であります。觀賞用鳩クロツバー種、フアンテイル種、ジャコピン種で、食用鳩はカルノー種であります。

#### 【目 全 蹠 類】

カツオドリ(鰹鳥) 太平洋熱帯海の中中部及西部よりオーストラリア東北部に分布する熱帯鳥にして温帯地方及び種類より寒帯に迄達す、我國にては小笠原群島にて蕃殖し、島民は此れをヲニガミツナギドリと呼ぶ、此の鳥の生態を歌つたもので「四月五月は穴さらひ六月卵に七月雛」と云う歌有り、又 Marking bird (マーキングバード) と父島の歸化人が呼ぶ。

ガンカン鳥(軍艦鳥) 此の鳥は熱帯海に棲息し稀に北方に迷行す、本邦にても二種を産す。

日中は全く空中を飛翔し海面又は海面と同一水平線にある海岸に降ることなく、海上に浮ぶ時は獲物を捕ふる位にして一般には他の海鳥例へば「かつをどり、う、ペリかん、かもめ、あぢさし」を襲つて食物を吐出せしめて此れを捕食す、食物は魚類、軟体類、クラゲ類等なり。

エンビコオー(燕尾鶴) 印度産

【目 鳥 類】

コノハツク(木葉木兎) 此の鳥は本邦特有亞種にて千島、北海道、本洲、四國及び九州各地に分布し、夜活動を成し森林、原野等に無音で飛びまわり野鼠其の他の小獸、爬蟲、蠕蟲、軟體類少數の鳥等を捕食し益鳥なり、晝間は樹洞や岩隙に棲む、此の種はこのはづく中最小のものなり。最近一部の學説として聲の佛物僧の稱あり。

ワシミミツク(鷲木兎) 南滿、朝鮮に又北支那に棲み本邦にては南千島(稀)、北海道(稀)五島列島及び奄美大島等より知らる。夜猛禽として知らるゝ夜間に出でて各種の獵鳥を襲ふ害もあるが亦野兎、野鼠等を捕食す、巢は岩間或は地上に造る。

370  
185

昭和拾年八月一日印刷  
昭和拾年八月五日發行

非賣品

不許複製

發行所 教育資料 **グラフィック協會**

東京市京橋區木挽町四丁目三泰聖ビル

電話京橋(56)三四一三番

振替口座東京七六二五七番

印刷所 吉田屋商店

東京市京橋區銀座二丁目四  
電話京橋(56)〇七六〇番

終

